

WEL・NET

通信

- 特集1 リハビリ目標の共有
- 特集2 機械浴槽リニューアル!
- 新任医師のご紹介・地域リハビリ研修会・チーム紹介 など

2023.11

発行日 令和5年 11月 15日
発行 西広島リハビリテーション病院
事業局
☎ 082-921-3230 (代表)
URL <https://www.welnet.jp/>
E-mail wel@welnet.jp

WELNET 通信は、西広島リハビリテーション病院の地域リハビリ・地域連携に関わる活動をご紹介する広報誌です



特集

患者さんの主体性を引き出す

リハビリ目標の 共有



リハビリアプローチの軸となるカンファレンスの1つ、摂食嚥下支援カンファレンスの様子



医療法人社団朋和会

西広島リハビリテーション病院

患者さんの主体性を引き出す リハビリ目標の共有

回復期リハビリ病棟では、目標を設定し、それを患者さん本人を含めたチームの全員で共有して、同じ方向に向かって計画的にリハビリテーションを進めていきます。ここでは、当院が取り組んでいる目標共有の工夫をご紹介します。

リハビリの基本的流れ

当院のリハビリテーションの基本的流れは、右図の通りです。【図1】

入院時に、予後予測と患者・家族の希望をもとに、退院時のゴールを設定します。そしてどれくらいの期間でどう能力を身につければそれが達成可能かを考えながら、2週間で1サイクルとして短期目標を設定します。

1サイクルの中は、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)のPDCA方式を進めます。【図2】

※ リハビリの流れについては3ページもご参照ください。

患者さんとの目標の共有

これらの図からも、「目標」がリハビリテーションの重要な要素であることが分かりますね。患者さんと目標を共有することには、どのような意味があるのでしょうか。

山田： 患者さんが目標を意識して意欲的にリハビリテーションに取り組むと、やはり改善度が上がると思います。意欲的に、というところがとても重要で、難しいところでもあります。

福江： そこではじめたのが、患者さんとの目標の共有です。例えば、「リハビリテーション目標シート」というものを、病室に貼っています【図3】。リハビリの目標はたくさんあるんですが、その中で優先順位をつけて、次の2週間はここを中心にがんばっていきましょう、ということを明確にするわけです。

三島： 歩行練習を重点的にやっていこうということであれば、リハビリで歩行練習をするだけでなく、リハビリ以外の時間に病棟でも看護師・介護福祉士と積極的に歩くようにするなど、連携して達成を目指します。

山田： 病室に貼ってあるシートを一緒に見ながら、今日はできましたねとか、こっちはもう少し改善したい点がありますねとか、フィードバックをしながら、○と△で達成状況を記録するんです。患者さんがイメージしやすいよう、この目標は退院後の生活のどういうところにつながっていくのか、という話もするようにしています。

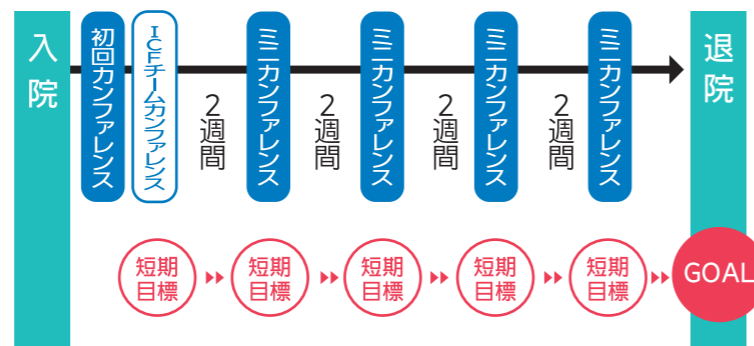


図1：入院から退院までの流れ

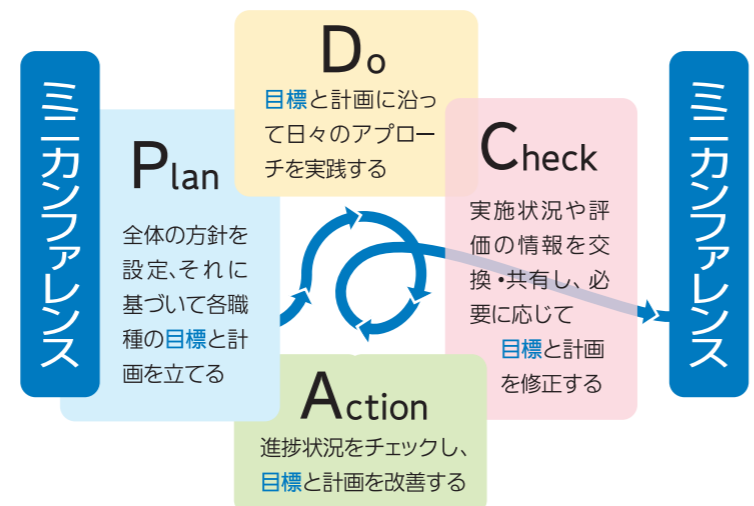


図2：ミニカンファレンスを中心としたPDCAサイクル

リハビリ目標		(本1階) 西リハ 花子様 (にしりは はなこ) (女)													
2週間 リハビリ目標 2023年10月24日(火)		<ul style="list-style-type: none"> 終日病棟内を小歩行器での移動が自立的 空風呂での浴槽のまたぎ動作が見守りで行える 内服1日分管理が忘れなく行える 資料を見ながら顔面マッサージ・口の体操を1人でやる 													
生活目標	日付	10/3(火)	10/4(水)	10/5(木)	10/6(金)	10/7(土)	10/8(日)	10/9(月)	10/10(火)	10/11(水)	10/12(木)	10/13(金)	10/14(土)	10/15(日)	10/16(月)
終日病棟内を小歩行器での移動が自立的	評価者	三島	三島	三島	山田	三島	三島	山田	三島	山田	三島	山田	三島	山田	三島
内服1日分管理が忘れなく行える		△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
略															
評価：(目標達成レベル:○)(継続が必要:△)(実施せず:-)															

図3：リハビリテーション目標シートの例

福江： また、リハビリ時間や入浴時間などを記載した予定表を毎日患者さんにお渡しするんですが、そこにも目標と、担当看護師の名前を記載しています。これは患者さんが目標をいつでも確認でき、病棟練習の実施時間を担当看護師に相談しやすいように、という仕掛けです。

一 取り組みの効果は出ていますか？

三島： 検温の時などに、患者さんの方から「今日何時だったら(一緒に)歩けますか?」って言うられることは増えましたね。

福江： 私たちは「できるADL」と「しているADL」【用語解説】という言い方をしますが、この取り組みをはじめてからその差が縮まっているというデータも出ています【図4】。それは、日常の具体的な目標をあげてしっかり取り組もう、という意欲があるからだと思います。

導入前と後での「できるADL」と「しているADL」の差

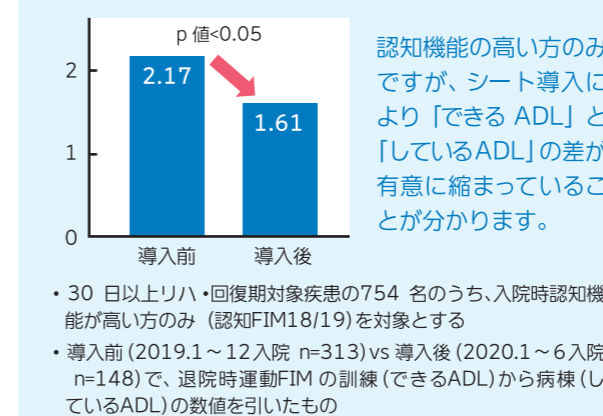


図4：リハビリ目標シートの導入結果



▲ 患者さんと一緒に見ながらチェックします。

- ADL**
人が独立して生活するために
行う基本的な動作。
例：食事動作、更衣動作、トイレ動作、入浴動作、移動、コミュニケーション など
- できるADL**
訓練時に確認できる最大能力のADL
- しているADL**
日常生活の中で自然にしているADL

もっと意欲を高めるために

一 患者さんの意欲を高める工夫が他にもありますか？

三島： ここまでできるようになりましたね、っていう声掛けをすると、患者さんはすごく嬉しそうにしてくださるんです。そういう声掛け1つでもモチベーションが上がると思います。

山田： ちょっとした成功体験を積み重ねていくことは大事ですね。

福江： 病棟で歩行練習をしていたら、看護師さんや介護福祉士さんが来てくれて、「すごいですね!」って言うてくれることがあって。

山田： もうそんなに歩けるようになったんですかって。本当にびっくりすることがあるんですよね。

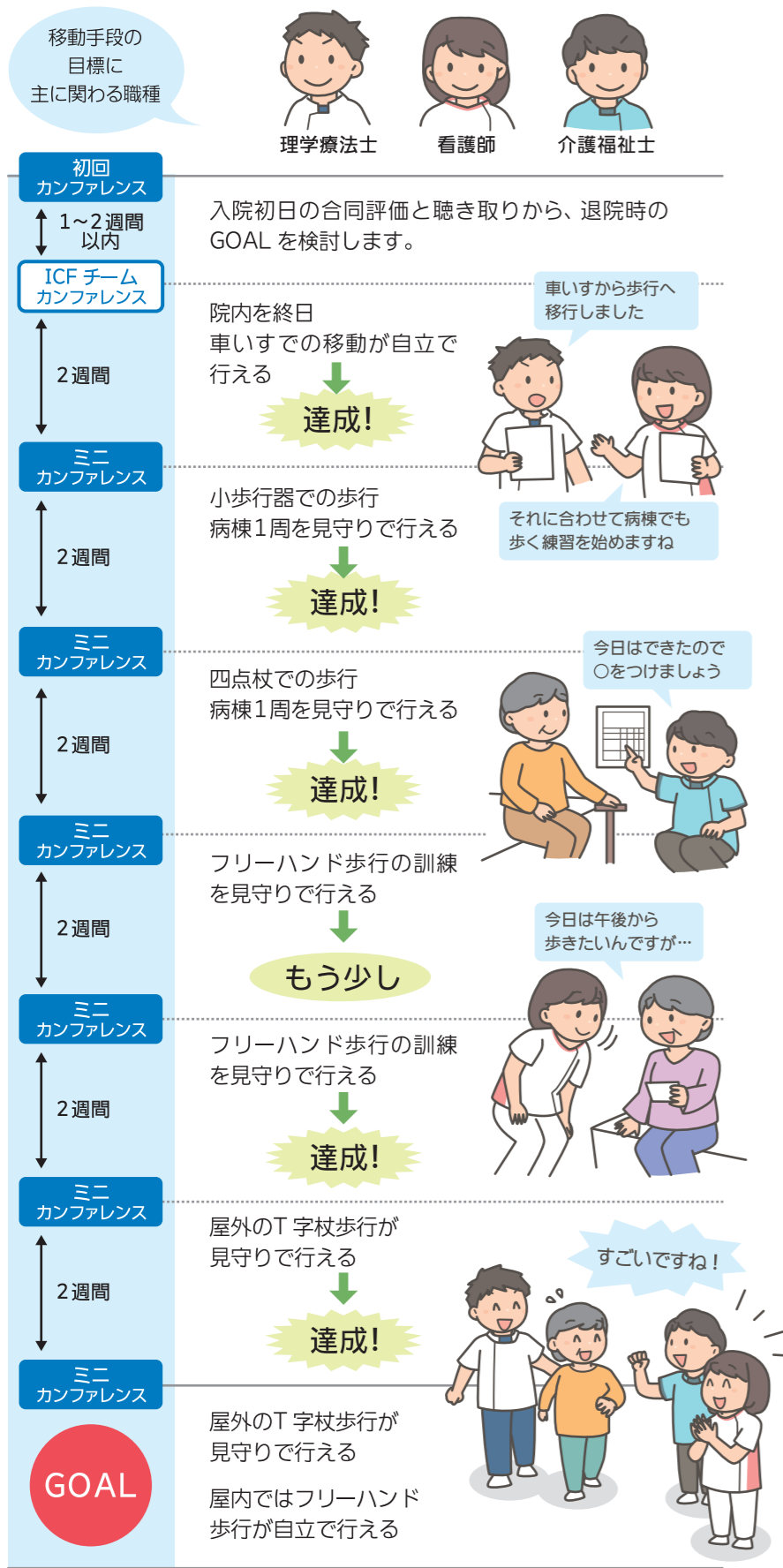
福江： そういふことがあるので、私たちもリハビリ室だけじゃなくて、病棟で、つまり実際の生活の現場でも、歩行練習をするようにしているんです。

三島： その姿を見て、看護介護の方でも、それならもっとこんな練習ができるかな、という風に考えることにつながっていきます。

福江： 私たちは患者さんを治すというより、患者さんが治るためのお手伝いをしているという感覚です。いかに患者さんの意欲を高めて、主体的に取り組んでもらうか、というところは、これからも追及していきたいですね。

目標設定とリハビリテーションの流れ (例)

「移動手段」に関する目標を例に、目標設定とリハビリテーションの流れを見てみましょう。



ICFチームカンファレンス

各職種が収集・評価した情報をICFの形でまとめ、それをもとに各項目の退院時のGOALとなる目標を設定し、全体の計画を立てます。



▲ 上記では、入院時に撮影したご自宅の様子を見ながら、退院時の生活を想定した目標を設定しています。

ミニカンファレンス

毎朝のミーティングの時間に、1患者あたり5分程度(1日2~3患者ずつ)で、実施状況の確認と今後の方針の検討を行います。「ミニ」と名前のついた短いカンファレンスですが、その代わりに1患者あたり2週間に1回と高頻度で行うことができます。

実用的なリハビリ

その方の退院後の生活について希望や状況を聴き取り、実用的な目標・リハビリとなるよう心がけています。例えば更衣の練習は、基本的にその方の普段着で行います。(当院では病院着のレンタルは行っていません) また、難しいとされる入浴動作の練習は、ご自宅の浴室に合わせて空風呂でのシミュレーションや家庭風呂での練習を通して、より良い環境・動作を提案します。



2023.6

機械浴槽リニューアル!

当院では、快適な入浴環境を提供するため、眺めのいい5階に機械浴槽を設置しています。今年6月には、より快適に入浴していただけるよう、機械浴槽のリニューアルを行いました。



Q. リニューアルで何が変わったの?

A. 足元の空間が広くなり、背の高い方や足を曲げることが難しい方にも、ゆったりとくつろいで入浴していただくことができるようになりました。その他、リラックス効果を高める機能が追加され、利用者さんがよりリラックスし、安心して入浴していただけるようになりました。

Q. 利用者さんに人気の新機能は?

- ヘッドレスト 頭を支えてくれます。
- アームレスト 身体を支えてくれます。
- マイクロバブル 超微細な泡で体の汚れを落としやすくします。
- リクライニング機能 適度な角度に傾けることができます。
- たし湯、温度・湯量調整 利用者さんに合わせ、調整することができます。

Q. 入浴方法に変更は?

A. 利用者さんに、効率よく入浴していただくため、以下のような工夫をしました。

● タイムスケジュールの活用 どの利用者さんが、何時にどのお風呂に入浴するかを明確にして、病棟の職員と情報共有しました。利用者さんは一日の予定が立てやすくなり、職員は入浴の準備がしやすくなりました。



● 多様な入浴方法の提案 利用者さんに合わせて、機械風呂だけでなく、家庭風呂や歩行浴での入浴方法を提案し、利用を促進しました。

Q. なぜ、入浴環境にこだわるの?

A. 当院では、入浴は基本的に週3回です。リハビリの疲れを癒したり、心身の健康を維持するため、リラックスして入浴できる環境の提供を大切にしています。



介護福祉士・主任 入浴委員会 委員長 小滝 雅博

10 OCT

2023.10.1 新任医師のご紹介



本館2階・西館2階病棟

リハビリテーション科

医師 三尾 仁人
みお きみと

趣味 スポーツ観戦

出身地 東京都

10月から赴任しました三尾と申します。東京慈恵医科大学病院リハビリテーション科に所属しており、こちらに赴任する前は東京の病院で勤務していました。ご迷惑をおかけする点もあると思いますが、一生懸命頑張りますので、宜しくお願いいたします。

本館1階・本館2階病棟

リハビリテーション科

医師 岡 祐一朗
おか ゆういちろう

趣味 釣り、焚火

出身地 香川県

はじめまして。10月より赴任いたしました岡と申します。私がリハビリテーション科医を目指したのは、機能の障害を診る専門として患者様の希望や生活の場に帰ってやりたいことをより近いところで医学的にお手伝いできると思ったからです。まだまだ経験が浅く未熟ですが、勉強を頑張りたいと思いますので、宜しくお願いいたします。



地域リハビリテーション広域支援センター 令和5年度 地域リハビリ研修会

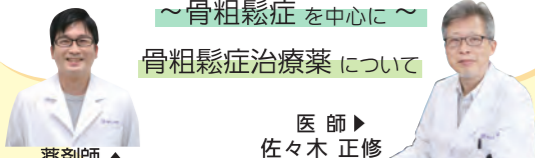
骨粗鬆症を予防して
いつまでも元気で暮らそう

当院は、地域リハビリテーション広域支援センターとして、地域の皆様に役立つリハビリの情報をお届けする「地域リハビリ研修会」を実施しています。今年度は、地域にお住いの骨粗鬆症に関心のある皆様に下記の内容で開催します。

第1回

11/17 (金) 13:40 開場
14:00
15:00

高齢期の運動器障害
～骨粗鬆症を中心に～
骨粗鬆症治療薬について



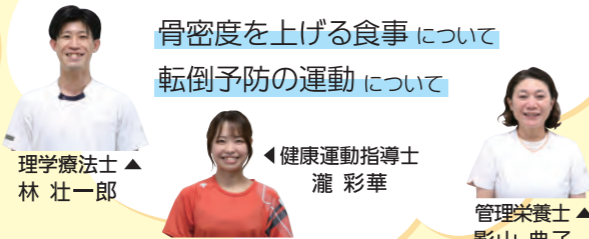
薬剤師 ▲ 小原 和久

医師 ▶ 佐々木 正修

第2回

12/15 (金) 13:40 開場
14:00
15:00

骨密度を上げる食事について
転倒予防の運動について



理学療法士 ▲ 林 壮一郎

健康運動指導士 ▲ 瀧 彩華

管理栄養士 ▲ 影山 典子

両日共に、ご希望の方にはFRAX(骨折危険度)の判定を行います!+



詳しくは、ホームページをご覧ください。

お問合せ窓口 082-921-3230 (代表) kouhou@welnet.jp 担当: 小川、鎌田

※ 医師やスタッフの肩書き/氏名は掲載時点のものであり、現在は変更している可能性があります。 ※ 筆頭発表者・執筆者のみ表記しています。
※ DR:医師 PT:理学療法士 OT:作業療法士 ST:言語聴覚士 RM:リハビリマネージャー NS:看護師 CW:介護福祉士 CP:公認心理師 RD:管理栄養士

外部講演

- 2023.4.1 -4.2 2023年度 第26回 回復期リハ病棟専従医師研修会 (WEB 研修) 講義5「高次脳機能障害のリハビリテーション」 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2023.6.6 2023年度 (第13期) 回復期セラピストマネージャー認定コース 回復期リハビリテーション病棟の歴史と意義 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2023.6.30 第60回 日本リハビリテーション医学会学術集会 TsuNaGu シンポジウム2「回復期リハビリテーションにおける経頭蓋磁気刺激の活用」 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2023.7.19 GSK 痙縮治療 Conference 再考・痙縮に対するボツリヌス療法最適化～上限投与量の変更によって変わる事、変わらないこと～ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2023.7.21 口腔ケアのプロから学ぶオーラルフレイル予防 (広島県看護協会) 多職種で取り組むオーラルフレイル予防 折出 由起 (DH)
- 2023.7.26 第一三共 病院経営セミナー これからの回復期リハビリテーション病棟に求められる機能・役割とは 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2023.9.30 -10.1 2023年度 第27回 回復期リハ病棟専従医師研修会 (WEB 研修) 講義5「高次脳機能障害のリハビリテーション」 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2023.10.2 -10.31 2023年度 第13回 リスクマネジメント研修会 (オンデマンド配信) KYT (危険予知トレーニング) 杉本 真理子 (NS・副院長・看護介護部部長)
- 2023.10.15 2023年度全職種研修会 (WEB 研修) 講義Ⅲ 回復期リハビリテーション病棟におけるチームアプローチ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2023.10.26 -10.27 リハビリテーション・ケア合同研究大会 広島2023 主催団体企画シンポジウム 1-2「回復期リハビリテーション病棟における医科歯科連携と口腔への対応の効果～歯科衛生士の立場から～」 折出 由起 (DH) 主催団体企画シンポジウム 4「当事者のチカラを引き出す」専門職の関わり 山下 浩一郎 (MSW・副主任) 開催地企画シンポジウム 4-2 言語聴覚士と地域支援「広島県失語症者向け意思疎通支援事業について」 沖田 啓子 (ST・リハビリ部長)
- 2023.10.28 第17回 広島脳卒中市民シンポジウム「脳卒中リハビリテーションの最前線」 岡本 隆嗣 (DR・病院長)

学会発表

- 2023.6.23 -6.24 第24回 言語聴覚学会 回復期リハビリテーション病棟入院の失語症患者を対象にした「簡易失語症検査」の作成 山内 温子 (ST・副主任)
- 2023.6.29 -7.2 第60回 日本リハビリテーション医学会学術集会 回復期における当院のてんかん治療の現状 松本 敦仁 (DR)
- 2023.9.9 -9.10 第21回 日本神経理学療法学会 Extension thrust pattern を呈する脳卒中片麻痺患者の歩行に密着型歩行補助装置 RE-Gait®が与える影響 中臺 久恵 (PT・副主任) 脳卒中後痙縮下肢への拡散型体外衝撃波の複数回施行の効果について 渡邊 匠 (PT・副主任)
- 2023.9.29 -10.1 第25回 日本骨粗鬆症学会 我々の回復期リハビリテーション病院で行っている新鮮骨粗鬆症性椎体骨折に対する初期床上安静の実際 佐々木 正修 (DR) 回復期リハビリテーション病棟における骨粗鬆症性椎体骨折に対する積極的保存治療の試み 福江 亮 (PT・RM)
- 2023.10.14 -10.15 全日本病院学会 in 広島 リハビリ情報発信ブログ「西リハ情報箱」の活用 小川 美歩 (事務・副主任) リハビリテーション部の単位インセンティブ手当導入について 登能 淳 (事務・事務課長) 「患者向け」および「職員向け」wi-fi 環境構築を含めたネットワークインフラ刷新の効果 田村 嘉靖 (事務・情報管理室課長) 介護支援専門員資格取得および資格継続の支援策について 吉野 高博 (事務・統括本部長)

- 2023.10.19 -10.20 第5回 日本スティミュレーションセラピー学会学術大会 in 京都 痙縮の定量的測定器を用いた脳卒中後痙縮下肢に対する拡散型体外衝撃波の即時効果の検討 渡邊 匠 (PT・副主任) 慢性期片麻痺患者の下肢における痙縮に対する拡散型体外衝撃波の効果 渡邊 舞 (PT)
- 2023.10.26 -10.27 リハビリテーション・ケア合同研究大会 広島 2023 多職種によるミールラウンドの取り組み 三奈木 優花 (RD) 利用者家族と職員のスムーズな情報交換を目指して 花田 実希 (CW) 通所リハビリで利用者ごとに自宅での生活を踏まえた意味のある集団活動を提供することを目的とした取り組みの報告 山田 清史 (CW・主任) ノートを使用したフィードバック訓練で調理動作が自立した例 角藤 天哉 (OT) 若年性脳出血を発生し10年以上経過した患者にボツリヌス療法と拡散型体外衝撃波を併用し就職活動等社会参加に繋がった症例 上森 契悟 (OT・副主任) 回復期リハビリテーション病棟における骨形成促進薬の使用実態と病院負担の現状 小原 和久 (薬剤師・薬剤科科長) 回復期リハビリテーション病棟における室内での転倒及び転倒受傷の予防に向けた取り組み (第2報) 中西 悠人 (PT) 超急性期から一貫してリハビリテーション治療に関わった脳梗塞合併症多発骨折の一例 岡 祐一朗 (DR)

専門雑誌・書籍

- 2023.3.31 広島県立三次清陵高等学校創立百周年記念誌「緑ヶ丘」 一人でも多くの人に笑顔になってもらいたい 落合 里咲 (CW)
- 2023.6.22 脳損傷を支える本人・家族・専門職による生活・生きがいガイド 脳卒中・脳外傷者のためのお助けガイド 脳損傷者を 社会福祉士 山下 浩一郎 (MSW・副主任) 支援する職種: 薬剤師 小原 和久 (薬剤師・薬剤科科長) 管理栄養士 影山 典子 (RD・栄養課課長) ケアマネージャー 中泉 京子 (ケアマネージャー・居宅介護センターとも所長)
- 2023.6.25 広島かかりつけ医シリーズ 10 迷ったときのかかりつけ医 & 病院 百歳まで元気編・ピンピン長生きするために・患者・利用者・家族に寄り添う専門チームによる全面的なケア 西広島リハビリテーション病院 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2023.6.30 リハビリテーション医学・医療における処方作成テキスト V 各疾患に対するリハビリテーション処方 3 脳血管障害 (生活期) 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2023.6 JOIN! vol.3 (インターリハ株式会社) Shock Wave Users Interview 岡本 隆嗣 (DR・病院長) / 渡邊 匠 (PT・副主任) / 上森 契悟 (OT・副主任)
- 2023.6 日本慢性期医療協会誌 第147号 vol.31 2023.6 隔月号 特集 第10回慢性期リハビリテーション学会 シンポジウム 2「多職種協働で行う退院支援 (地域連携の視点)」 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2023.7.20 Medical Tribune 誌 (WEB 掲載 7月20日) 低頻度 rTMS で回復期脳卒中の上肢機能が改善 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2023.10.4 一般社団法人日本言語聴覚士協会 ST AND UP 2023 第67号 (創刊 67号/通巻 139号) p.16 シリーズ 卒前教育と卒後教育の工夫 (卒後教育) 渡邊 光子 (ST・主任)
- 2023.10.31 回復期リハビリテーション病棟協会機関誌 2023年10月号 第22巻 第3号 (通巻 86号) pp.5-18 特集1 執行部三役座談会 回復期リハビリテーション病棟の課題と目標～2024年度改定とその先に向けて～ 岡本 隆嗣 (DR・病院長) p.29 特集2 「2週間ごとに医師が処方・指示を更新 チームが治療計画を見直すPDCAサイクルを継続」 田中 直次郎 (PT・SCR マネージャー) p.46 特集2 「入院直後・退院前訪問で生活空間・地域を把握 生活の視点を具体的な訓練プログラム等に反映」 岡 光孝 (OT・地域支援リハマネージャー)

チーム紹介！
施設管理課
入浴介助

主にご利用者さんの洗体や大浴場の清掃を行っています。

心掛けていることは？

入浴は、プライベートな時間です。入浴介助をする際には、利用者さんの安全と尊厳を最優先に洗体を行っています。他職種と連携し、ご利用者さんお一人おひとりに不快な所がないか伺い、皮膚の状態に合わせて快適に入浴していただけるように心掛けています。

気持ちよく入浴していただくための心遣い

新しい機械浴槽に変わり、お湯やシャワーの温度調整、シャワーの水圧調整ができるようになりました。そのため、利用者さんごとに調整を行っています。洗体は、



利用者さんの皮膚の状態に合わせながら、寒くないようにお湯をかけながら行っています。

やりがいを感じる時はどんな時ですか？

入浴介助をしているときに、感謝のお言葉や笑顔をいただいたり、「お風呂の時間が一番好き」と言っていたいただいた時にやりがいを感じます。

新しい浴槽に対するご利用者さんの反応

浴槽の形が面白い、お湯が足元から出てくるので楽しい、足が伸ばせて気持ちが良いなど、大変好評です。

医療法人社団朋和会 基本理念

信じ合い、明日を拓く

私たちは「信じ合い、明日を拓く」という言葉を基本理念としております。

「信じ合う」という言葉は、患者さんと職員との信頼関係とともに、職員間の信頼関係をも含んでおります。

理想的なリハビリテーションは、ひとりの患者さんを中心に全スタッフが取り組むチーム医療が原点です。

たしかな信頼関係のもと、全職員が心をひとつにして治療に取り組めばそこには安心感が生まれ、患者さんに、より大きなご満足をいただけるものと信じております。

「明日を拓く」という言葉は、現状に満足することなく未来へ向けて挑戦したいという私たちの願いです。

超スピードで進化する医学の流れをしっかりと見定め、フロンティア・スピリッツを胸に、どんな困難にも立ち向かっていきたいという気持ちをこの言葉で表現しました。

「信じ合い、明日を拓く」この言葉をいつも大切に考え、患者さんやご家族の皆さん、受診者の皆さんにご奉仕し、地域社会の発展に寄与していきたいと心より願っております。

医療法人社団 朋和会
初代理事長 岡本則昭

医療法人社団朋和会
西広島リハビリテーション病院

〒731-5143 広島市佐伯区三宅6丁目265番地
TEL (082) 921-3230 (代表)
FAX (082) 921-3237 E-mail wel@welnet.jp
URL https://www.welnet.jp/

★ 理事長・病院長：岡本 隆嗣



★ 広島中心部より車で約30分 ★ 広電楽々園駅より車で約10分 ★ JR五日市駅南口よりバスで15分

